

# 茶室覚書

古田織部 京都市 藪内家 16... 燕庵  
深三畳台目下座床 えんあん

外観 : 入母屋造り茅葺屋根 東南隅に捨柱土間庇とし躰口  
力竹を下地窓左右に配置  
床框 : 真塗り 床柱 : なぐり 墨蹟窓に花釘(花明り窓)  
中柱 : 赤松皮付  
点前座 : 釣棚の雲雀棚を配し、茶道口の方立に竹  
勝手付に色紙窓、窓は全部で十を数え多窓化は織部の特色  
下地窓の敷居はそのまま延びて袖壁の壁止め、横木となる  
天井 : 点前座 床前二畳蒲の平天井 他は化粧屋根

- ・藪内家の代表的な茶室 燕庵の写(うつし)は相伝者のみ許され、燕庵が失われた折には写しの最も古い席を寄進し、写は本歌に忠実が義務づけられている
- ・藪内紹智は紹鷗に茶を学び、利休の媒酌で織部の妹を妻に迎えた
- ・織部が大坂出陣の際、紹智に譲った茶室といわれる
- ・客座三畳をはさんで台目+相伴席一畳を配する(太鼓襖二本で隔てる 欄間に板 燕庵形式は江戸時代に大流行する

